

➤ 13日 月曜

I サムエル

12:16 今、しっかり立って、【主】があなたがたの目の前で行われる、この大きなみわざを見なさい。

12:17 今は小麦の刈り入れ時ではないか。

【主】が雷と雨を下されるようにと、私は主を呼び求める。あなたがたは王を求めることで、【主】の目の前に犯した悪が大きかったことを認めて、心に留めなさい。」

12:18 そしてサムエルは【主】を呼び求めた。すると、【主】はその日、雷と雨を下された。民はみな、【主】とサムエルを非常に恐れた。

12:19 民はみなサムエルに言った。「私たちが死なないように、しもべどものために、あなたの神、【主】に祈ってください。私たちは、王を求めることによって、私たちのあらゆる罪の上に悪を加えてしまったからです。」

12:20 サムエルは民に言った。「恐れてはならない。あなたがたは、このすべての悪を行った。しかし【主】に従う道から外れず、心を尽くして【主】に仕えなさい。

12:21 役にも立たず、救い出すこともできない、空しいものを追う道へ外れてはならない。それらは、空しいものだ。

12:22 【主】は、ご自分の大いなる御名のために、ご自分の民を捨て去りはしない。

【主】は、あなたがたをご自分の民とすることを良しとされたからだ。

12:23 私もまた、あなたがたのために祈るのをやめ、【主】の前に罪ある者となることなど、とてもできない。私はあなたがたに、良い正しい道を教えよう。

12:24 ただ【主】を恐れ、心を尽くして、誠



実に主に仕えなさい。主がどれほど大いなることをあなたがたになされたかを、よく見なさい。

12:25 あなたがたが悪を重ねるなら、あなたがたも、あなたがたの王も滅ぼし尽くされる。」

前節に、「主の声に聞き従わず…逆らうなら、主の手が…あなたがたの上にもくだる。」と言われた民でしたが、彼らが真実に決心するためには主のみわざが必要でした。主は季節的には有り得ない雷と雨を下されたのです。みことばに対してあいまいな者には、主のみわざが下されることがあります。それに気づきましょう。そして、恐れを持って従いましょう。

ここに来てイスラエルの民は、神の代わりに王を求めることによって、神の前に罪を犯したと悟りました。それゆえに厳かな思いになって、サムエルにとりなしの祈りを願いました。自らの非に気づいたなら、それを認め謙遜に助けを求めることは必要です。

サムエルも彼らのためにとりなさいならば、それは罪であると理解していました。民は彼の指導に従わなかったのですが、それでも自分に与えられた指導者としての使命を重く受け止めていたのです。人の非を思うよりも自分の使命を思いましょう。また誰かのために生きるように主から使命が与えられているなら、一方的な神の愛によって使命を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

